# 私たちがつくる持続可能な社会

©UNICEF/UN0345550/Karimi

1989年に『子どもの権利条約』が採択されてから、今年で30年を迎えます。「生きる権利」「育つ権利」「守られる権利」「参加する権利」を柱に、世界196の国と地域で採択された、世界で最も広く受け入れられている条約となりました。

**大きな進歩！**

**子どもの権利条約にもとづく国際社会の取り組みもあり、1990年から2015年までに大きな進歩もありました。**

5歳未満の子どもの死亡率は **53%減少**（1270万人→600万人）

低体重の割合は **半減**

妊産婦の死亡率は **45%減少**

©UNICEF/UN065221/Phelps

一方、2019年現在、世界では530万人の子どもが5歳の誕生日を迎えることができず、6,300万人の子どもが学校に通えずにいます。そして、ユニセフは2016年、現在の傾向のままだと、2030年までに、6,900万人の5歳未満の子どもたちが防ぐことのできる病気のために亡くなり、1億6,700万人の子どもたちが貧困下で暮らし、7億5,000万人の子どもたちが児童婚をする、と予想しました。

©UNICEF/UN0344450/Prieto

このままだと、2030年、世界の子どもを取りまく社会はどのようになっているのでしょうか？

この世界に生まれた子どもひとりひとり、誰もが等しく権利を持ち、私たちは未来と希望を次の世代につなぐ必要があります。

**「誰ひとり取り残さない」ために、世界は今、一丸となって『持続可能な開発目標（SDGs）』に取り組んでいます。**

みんなで取り組もう！

# 持続可能な開発目標［SDGs］

サスティナブル デベロップメント ゴールズ
Sustainable Development Goals

SDGsは、貧困や不平等・格差、気候変動などのさまざまな問題を根本的に解決することを目指す、世界全体で取り組む17の目標です

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標

2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です

**1 貧困をなくそう**
地球上のあらゆる形の貧困をなくそう

**2 飢餓をゼロに**
飢えをなくし、だれもが栄養のある食糧を十分に手に入れられるよう、地球の環境を守り続けながら農業を進めよう

**3 すべての人に健康と福祉を**
だれもが健康で幸せな生活を送れるようにしよう

**4 質の高い教育をみんなに**
だれもが公平に、良い教育を受けられるように、また一生に渡って学習できる機会を広めよう

**5 ジェンダー平等を実現しよう**
男女平等を実現し、すべての女性と女の子の能力を伸ばし可能性を広げよう

**6 安全な水とトイレを世界中に**
だれもが安全な水とトイレを利用できるようにし、自分たちでずっと管理していけるようにしよう

**7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに**
すべての人が、安くて安全で現代的なエネルギーをずっと利用できるようにしよう

**8 働きがいも経済成長も**
みんなの生活を良くする安定した経済成長を進め、だれもが人間らしく生産的な仕事ができる社会を作ろう（2025年までに、子どもの兵士をふくめた、働かなければならない子どもをなくそう）

**9 産業と技術革新の基盤をつくろう**
災害に強いインフラを整え、新しい技術を開発し、みんなに役立つ安定した産業化を進めよう

**10 人や国の不平等をなくそう**
世界中から不平等を減らそう

**11 住み続けられるまちづくりを**
だれもがずっと安全に暮らせて、災害にも強いまちをつくろう

**12 つくる責任つかう責任**
生産者も消費者も、地球の環境と人々の健康を守れるよう、責任ある行動をとろう

**13 気候変動に具体的な対策を**
気候変動から地球を守るために、今すぐ行動を起こそう

**14 海の豊かさを守ろう**
海の資源を守り、大切に使おう

**15 陸の豊かさも守ろう**
陸の豊かさを守り、砂漠化を防いで、多様な生物が生きられるように大切に使おう

**16 平和と公正をすべての人に**
平和でだれもが受け入れられ、すべての人が法や制度で守られる社会をつくろう

**17 パートナーシップで目標を達成しよう**
世界のすべての人がみんなで協力しあい、これらの目標を達成しよう

2019.11 発行

Liberia

リベリア

# 同世代のメッセージを届ける！

貢献するSDGs

1 貧困をなくそう　5 ジェンダー平等を実現しよう　10 人や国の不平等をなくそう

## リベリアってどんな国？

（データはすべて『世界子供白書2019』、MoGCSPによる報告より）

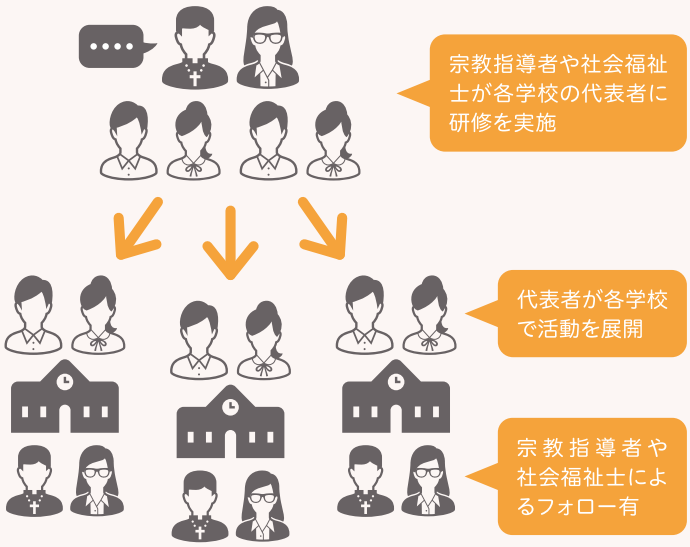
- 1,000件の出生あたり、71人の子どもが5歳の誕生日を迎えることができない。さらに、そのうち53人の赤ちゃんは1年も生きることができない。
- 2004年まで続いた内戦、および2014年から2016年にかけて流行したエボラ出血熱によって、多くの子どもが孤児になった。
- リベリアでは性暴力の被害が深刻で、年間2,000件の性的暴力が報告されているが96%が女性で、そのうち58%は18歳未満の女の子。

## 自分たちの問題を自分たちの声で届ける！解決する！

### 「バディ・システム」で身の回りの問題を解決

リベリアは課題も多い国ですが、人口の51%を18歳未満の子どもが占める若い国でもあります。そして、同年代による問題を解決しよう、と中・高生によるボランティアグループ「バディ・システム」があります。彼らは学校の部活動と同じように定期的に集まり、テストの落第、学校での暴力やハラスメント、中途退学など身の回りの問題に目を向け、声を上げる活動を行っています。「バディ・システム」に参加している女の子は「地域では女性が軽く見られることが多いですが、バディ・システムに参加するようになって、等しく自分の声を聞いてもらえて嬉しい」と話してくれました。

### バディ・システムの仕組み




研修を受けた各地域コミュニティの宗教指導者が、省庁と協力して、各学校で説明会を実施しています。代表生徒を集め子どもの人権保護の話と合わせてバディシステム導入に関する説明を行っています。各代表生徒はその説明を受け、自分の学校で導入するかどうかを検討します。現在のところ説明会に参加した学校のほぼ100%が導入しており、どのような形で展開するかは生徒自身に任されています。

# Liberia リベリア

## 学校を安心して過ごせる場所に

### ■各学校代表の生徒たちとの意見交換会にて

女の子たちが性的搾取の対象として狙われているという課題に直面すると、若者が立ち上がって防止していかなければと思います。渦中にいるからこそ、若者たちに声を掛けて啓発することの必要性を感じます。

私がこの活動に参加するモチベーションは2つあります。1つは女の子たちの声をきちんと聴いてくれるからです。他の授業では、男女どちらも手を挙げていたら、女の子は当てられないというような差別があるけれど、ここでは声を等しく聞いてくれます。もう1つは、目に見えて暴力が減っていることが感じられるからです。バディ・システムはニンバ郡では30校のうち5校しか導入されておらず、暴力は無くなったわけではないけれど、他に比べて暴力が減っているというのはすごく肌で感じます。

この辺の地域は差別がひどく、女の子は相手を直視してみることができないぐらい軽視された存在でした。女の子たちはみんながうつむいて生きてきたけれど、ここでは周りの人が女の子たちの意見も等しく聞いてくれる。それがすごく嬉しいです。

啓発活動を通し自分の知識が増えたことが嬉しいです。以前は進級と引き換えにお金を要求されたりしたけれど、みんなで一致団結して再試験を要求できるようになりました。お金の解決じゃなくて話し合いで、再試験をしてもらえるようになり嬉しかったです。


一食を捧げる運動 wakachiai sharing meals for friends

We Support unicef

立正佼成会は、「一食ユニセフ募金」を通じてユニセフの活動を応援しています。募金は、リベリア、シエラレオネにおける世界宗教者平和会議（WCRP/RfP）との子どもの保護事業、グアテマラの栄養習慣改善事業、並びに緊急支援事業に役立てられます。 http://www.ichijiki.org/

2019.11 発行

Sierra Leone

シエラレオネ

# 全ての子どもが、健康に成長できるように

貢献するSDGs

1 貧困をなくそう　3 すべての人に健康と福祉を　10 人や国の不平等をなくそう

## シエラレオネってどんな国?

- 1,000件の出生あたり、105人の子どもが5歳の誕生日を迎えることができない。さらに、そのうち33人の赤ちゃんは4週間も生きることができない。
- 安全な飲み水を利用できる人の割合は平均で61%。
- 読み書きが出来る15～24歳の女性の割合は51%。

（データはすべて『世界子供白書2019』より）

## 世界でも最も厳しい状況におかれる子どもたち

©UNICEF/UN011600/Holt

シエラレオネの子どもたちは、世界でも最も厳しい状況に置かれています。子どもの多くは5歳の誕生日を迎えることが出来ず、20～24歳の女性の30%は18歳までに結婚しており、36%は18歳までに出産を経験しています。小学校を卒業する女の子はわずかに65%で、中学校に進学する女の子は40%です。これらの状況の原因としては貧しいこと、まわりの同級生も学校に通っていないこと、大人たちがその必要性を理解していないこと、伝統的な部分が根強いことなどが挙げられます。

## すべての子どもが元気に育つように!

2016年以降、ユニセフはシエラレオネにおいて宗教指導者と連携し、彼らが子どもの生存・発達や子どもの保護の改善に関する態度や慣習に影響を与えることを支援してきました。

©Inter-Religious Council for Sierra Leone/2019

### まずは宗教者から!

宗教者はシエラレオネでは大きな影響力を持つ存在で、毎週の礼拝などを通じて、児童婚や予防接種、完全母乳育児などのメッセージを届けています。

### はしかから守る!

2019年、ユニセフはIRCSL（シエラレオネ諸宗教評議会）と協力して320万人の子どもに予防接種キャンペーンを行いました。はしかは、予防接種を受ければ防げる病気ですが、感染すると治療法がなく、栄養不良や健康状態の悪い子どもたちは命の危機にさらされます。

©UNICEF/UNI108671/Asselin

### 母乳育児

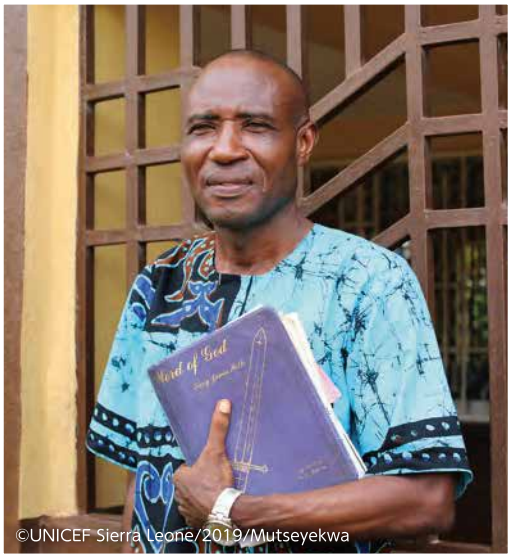
母乳、とくに生後まもなく分泌される初乳は栄養価が高く、「最初のワクチン」とも言われています。しかし、母乳育児で育てられる子どもは5割しかいません。ユニセフとIRCSLは母乳週間に母乳育児に関するメッセージを伝えています。

©UNICEF/UNI109375/Johansson

Sierra Leone
シエラレオネ

# 宗教の力を使って、みんなにメッセージを届けています

エマニュエル・ファマ牧師は礼拝で積極的に子どもの権利、妊産婦や子どもの栄養、子どもの保護、教育や水と衛生といった話題について触れ、礼拝に訪れた人々の意識の啓発を行っています。とりわけ、児童婚と10代の妊娠の撲滅に力をいれています。



©UNICEF Sierra Leone/2019/Mutseyekwa

## 宗教を通じて子どもの権利を守る

「宗教指導者として、病気や虐待などで苦しんでいる人がいたら、適切な情報を与えることが私の大切な役割です。人間の尊厳などの宗教のメッセージは児童婚などの社会問題を取り上げることで最もわかりやすく、人々に伝えることができます。宗教指導者として、子どもが権利や機会を奪われていることを黙って見過ごすことはできません。」

©UNICEF Sierra Leone/2019/Mutseyekwa

## 研修やカウンセリングを行っています

一食ユニセフ募金はエマニュエル牧師のような宗教指導者が子どもの生存に関するメッセージを広げるための研修にも活用されています。2018年は教会やモスクで児童にあたる年齢の子どもが婚礼を挙げた場合、宣言を行わないことで児童婚を撲滅する、という取り組みに重点をあてました。

教会に来る10代の子どもたちにも、定期的に同年代の悩みにどう立ち向かうか、カウンセリングも行っています。

## 宗教を超えて協力しあう

エマニュエル牧師はイスラム教のイマーム※とも一緒に取り組み、コーランから見た児童婚など、それぞれの違う視点を補い合いながら取り組んでいます。

児童婚の課題に対応するため、宗教を超えて話し合い、協力しています。

※イマーム…イスラム教の宗教指導者。

©UNICEF Sierra Leone/2019/Mutseyekwa

一食を捧げる運動
wakachiai
sharing meals for friends

We Support
unicef

立正佼成会は、「**一食ユニセフ募金**」を通じてユニセフの活動を応援しています。募金は、リベリア、シエラレオネにおける世界宗教者平和会議（WCRP/RfP）との子どもの保護事業、グアテマラの栄養習慣改善事業、並びに緊急支援事業に役立てられます。 http://www.ichijiki.org/

2019.11 発行

Guatemala

グアテマラ

# 「はじめの1000日」を大切に!

貢献するSDGs

1 貧困をなくそう　3 すべての人に健康と福祉を　10 人や国の不平等をなくそう

## グアテマラってどんな国?

- 1,000件の出生あたり、26人の子どもが5歳の誕生日を迎えることができず、そのうち22人の赤ちゃんは1年も生きることができない。
- グアテマラ、とりわけ先住民族の間では出産は命がけで、専門技能者が付き添う出産は66%にとどまり、10万件の出生に対して140人の妊産婦が命を落とす。

(データはすべて『世界子供白書2019』より)

## とりかえしのつかない「慢性栄養不良」

慢性栄養不良はお母さんのお腹の中にいる時から2歳の誕生日までの大切な「はじめの1000日」の間に十分な栄養や刺激が足りないために起きるもので、その影響は大人になっても取り返すことが出来ません。グアテマラでは47%の子どもが慢性栄養不良に苦しんでおり、その割合は世界で6番目に高く、中南米の中では最も深刻で、周辺国の平均の5倍以上です。

©佼成出版社

## 「はじめの1000日」を大切に!

2014年以降、ユニセフと立正佼成会はグアテマラにおいてすべてのお母さんと赤ちゃんが健康に育つように、病院や保健師、地域のリーダーたちと連携し、サービスの提供だけでなく意識の改善などにも取り組んできました。

©佼成出版社

### 五感をつかって学ぶ!

子どもの成長には栄養のある食事だけでなく、脳への刺激や、大人とのスキンシップも大切です。ユニセフが支援する「地域ECD※センター」では、地域住民が主体となって子どもの健全な成長を促すことを目的としており、子どもの成長に大切な栄養、愛情、刺激の3つについて、きっかけと知識を与えています。

※ECD・・・乳幼児期の子どもの発達。詳しくは裏面「乳幼児期の子どもへの取り組み」をご覧ください。

### お父さんも一緒に!

グアテマラでは伝統的に子育ては女性の仕事とされてきて、男性は積極的に育児に参加しませんでした。お父さんも一緒に参加することで家族全員が子育てに関わり、子どもにとってより良い環境での子育てを促します。

©佼成出版社

### みんなで一緒に栄養について学ぼう!

©佼成出版社

栄養に関するメッセージは、地域のセンターで広められるだけでなく、保健省のスタッフが地域を訪ねています。しかし、様々な民族が共存するグアテマラでは、一つのメッセージでもその場所や部族に合わせることが大切です。ユニセフは、地域のニーズに応じて、現地語で書かれた地域の住民が使いやすい教材を開発し、300以上の地域に配布しました。これら教材を使って、地域住民に対する教育や行動変容を促しています。

Guatemala グアテマラ

# 子どもの成長に社会全体で取り組む

## 乳幼児期の子どもへの取り組み

ユニセフは乳幼児期の子どもの発達（ECD）に積極的に取り組んでおり、とりわけお母さんが妊娠した日を0日として子どもが生まれてから2歳の誕生日までの1000日間を「はじめの1000日」として、この期間に子どもたちが愛情を受け、栄養のある食事を食べ、刺激をたくさん受けること、社会と繋がることを呼びかけています。

©UNICEF/Guatemala/2019

©佼成出版社

## 地域センターで教えてもらいました！

ベルタさん（26歳）は4歳の娘と1歳の息子がいます。
ベルタさんは最初の子どもの出産のとき、栄養について知識を持っておらず、母乳ではなく、アトーレ（トウモロコシを原料とした穀物飲料）を与えていました。その結果、子どもは急性栄養不良になってしまった、と言います。その当時の様子を「娘はむくんでいて、体重は軽かったです」と言います。治療の甲斐もあり一命はとりとめましたが、2人目の子どもの時には、その時に教えてもらった生後6ヶ月までは母乳を与えることを実践した結果、元気に育っています。

地域センターに行くといつも新しいことを学べるので、とても楽しいです。近くにそういったことを教えてくれる場所はないので、周りの友人も誘っています。

©佼成出版社

## 楽しみながら学ぶ！

ナタリーちゃん（10歳）は、お母さんと4歳の弟と一緒にセンターに来ます。
「弟が遊んだり、運動したり、読み書きも教えてくれるのでセンターはとてもいいと思います。弟は学校は好きじゃないけれど、ここに来るのは楽しいみたい」と言います。ナタリーちゃんが小さい時はセンターに来る機会がなかったそうですが、楽しそうな弟を見ると、「私も小さいとき、センターに来ていればよかった」と話してくれました。
ユニセフとパートナー団体は、乳幼児期の政策やプログラムを推進し、地域を広げながら革新的なモデルを導入してきました。ユニセフは、地域に根ざした早期幼児開発センターを促進し、子どもの発達を支援、子どもを育てるための親の知識と習慣の改善を目指します。

©UNICEF/Guatemala/2019

一食を捧げる運動 wakachiai sharing meals for friends

We Support unicef

立正佼成会は、「一食ユニセフ募金」を通じてユニセフの活動を応援しています。募金は、リベリア、シエラレオネにおける世界宗教者平和会議（WCRP/RfP）との子どもの保護事業、グアテマラの栄養習慣改善事業、並びに緊急支援事業に役立てられます。 http://www.ichijiki.org/